

# 言語の印象

大村伸一

報告書 歩月胸日(蛋曜日)

耳氏(注 1)は7時起床。

□注 1□

ご依頼の通り、すべての固有名詞はすでにお渡ししておりますコードブックによって暗号化されております。本文の解読には、適切なコードブックを参照さますようお願いいたします。

□注 1 おわり□

朝食の内容は、卵かけご飯。茶碗に一杯。

7時34分から8時18分までの間散歩。その経路は、添付経路データを参照してください(注 2)

なお、この時間は、耳氏が同家の門を通過した時間によって計測しております。

□注 2□

添付データは、経路情報のみです。事前にお渡ししたトラッカーソフトによって、地図上での実際のコースをご参照ください。

□注 2 おわり□

8時32分、同氏所有のマッキントッシュにてネットワークにアクセスし、32件のメールを読む。

「神経幾何学」に関するメーリングリストに参加しているため、28件はそれ。

2件は、耳氏がネットワークで発表した小説「エルブラン」に関する感想のメール。

1件は、ネットワークの管理局からの新サービスに関する案内。

残り1件は、送信者不明で、内容の確認なく削除。

いずれにも、返事は書かない。

8時54分、日記を書き始める。

日記の内容は以下の通り。

ただし、耳氏は、前日分の日記をその日の早朝に書く習慣であり、日付が前日のものであるのは、そのため。

歩月肩日（脂曜日）

今日から「印象」書き始める。

その小説の中には、この日記も含まれることになっている。

冒頭は、いわゆる「報告書」の形態になる。

ある人物の日常生活に関する観察記録の報告書であり、その人物の日記や執筆中の小説が報告書の中で引用される。

誰が何のためにそのような報告書を依頼したのかは謎というわけだ。

報告書の中には、通常、調査不可能と思われるような事項も記述される。

何故そのようなことが可能なのか。

今は、さまざまな謎を考えるのがなかなか楽しい。

14時23分、日記の記述を終え、昼食をとる。

スパゲッティを107g茹で、湯を切ったままにもつけずに食べる。

食後、15時2分家を出、15時50分、隣臓書店に着。徒歩。経路データ添付。

以下の本ならびに雑誌を購入。

「たまきれ」

「隠蔽されたされない」

「月刊みみず 倒月号」

書店を16時57分に出、17時2分自宅に着。徒歩。

上記書籍にざっと目を通し、18時16分、小説の執筆を始める。

ここまで書いたとき、報告者は、誰かに見られているような気がしてあたりをうかがった。

そこは、耳氏の書斎であり、耳氏は「言語の印象」の執筆に夢中で、肩越しにそ

の原稿を覗いている彼に気付いてはいない。

報告者は耳氏の書く文字を一文字一文字間違いなく書き写すため、ほとんど耳氏の耳の傍にまで顔を寄せている。

耳氏はふと耳許に誰かの息を感じたような気がして振り向く。

そのとき報告者は、日記を写す作業に戻る。

今日はあまり進まなかった。というより、この小説がどこにむかっているのか自分でも分からないのかもしれない。

20時3分、耳氏は机から立ち上がり、用をたすために部屋を出る。報告者は、耳氏を尾行する。

小説はこの部分まで書かれていた。

21時5分書斎に戻るが、それ以上執筆を続けることなく、ぼんやりして過ごす。22時33分就寝。

報告書 歩月足日(炭曜日)

□補足□

歩月胸日(蛋曜日)の報告書に対する支払を確認いたしました。

どうもありがとうございます。

ご不審に思われるやも知れませんが、あらかじめお断りしておきますが、確認作業を行ったのは、私の助手であります。私自身は、この報告書の作成のため、あらゆる時間を耳氏の監視に費やしております。

さて、同報告書の内容について、「小説の推敲状態がもっとよく分かるようにせよ」との指示については、今回、改善いたしたいと考えております。

さらに、日記と小説の間の区別が分かりにくいというご指摘ですが、文学にはう

とい私ではありますが、察するところ、耳氏のこの小説では、日記自体小説の一部であるらしく思われます。(注1) そのため、私の記録いたしました日記の部分と小説の中で引用されております日記の部分はお互いに重なりあってしまい、やや判別しにくくなっているものと思われます。今後、より明確になるように努力いたしたいとは思いますが、なにぶん、文学的な現象であるらしく、私にも不明な点も多く、ご期待に添えない場合もございますことをご承知ください。

□注1□

さらに、私のこの報告書もその一部であるかのごとくに書かれており、私もまたいささか混乱しております。

□注1 おわり□

□補足おわり□

耳氏は7時3分起床。

朝食の内容は、卵かけご飯。茶碗に一杯。

7時22分より歯を磨き、顔を洗う。

7時31分から8時10分までの間散歩。経路は添付。

8時17分より、ネットワークにアクセスし、51件のメールを処理する。

内39件は、「精神代数学」のメーリングリストのもの。

7件が「エルブラン」に関する感想。

2件は三日前に注文した「手招き」の処理完了と発送済みのメール。

頼氏より新しい小説の進行状況に関する問い合わせのメールが1件。

耳氏の返事は以下の通り。

□メール□

先日送っていただいたバンクロ歯<一時削除>ムの「長めの小便」は大変参考でした<3文字削除>になりました。

ザリにもああいう作家がいるのですね。

「印象」<2文字後退><3文字挿入>言語の<行末に移動>も一日目は書けました。

といっても、日記は前日のだから二日分ということになるのかな。

この調子なら、<7文字削除>順調ですので、特に心配は無用です。

そうそう、こないだ話に出ていたナマリスケの「とっぴんしゃん」は入手できませんか。是非読んで見たいのですが。<8文字後退><1文字削除><1文字挿入>み<行

末尾移動>

□メールのおわり□

観念氏より来月パーティをするので来ていただけないかという趣旨のメールが一件。

これには返事を保留。

差出人不明のメールが一件。内容を読まずに削除。

9時3分、日記を書き始める。

歩月胸日(蛋曜日)

昨日は、午後、藤蔵書店に行った。

最近健康のためにどこへ行くにも歩いていくが、さすがに遠い。50分くらいかかったような気がする。

買った本。

「たまきれ」は、爪あかの最新作。マッドサイエンティストが、ナノテクノロジーを駆使して究極の黒板消しを作ったが、実は黒板などもう世界にほとんど存在しない。そして、世界に唯一存在するといわれる最終黒板を求めて世界をさまようんだが、なにしろマッドサイエンティストなので、故意にしろ不注意にしろ、行く先行く先あらゆるものを破壊し続け最後には...つまりSFファンタジーだな。

「隠蔽されたされない」肩甲骨の本に最近こっているけれど、今回は、吸う学の基礎に関するちょっと革命的思想だ。吸う学はあまり得意でないが、分かりやすく書かれている。つまり、吸う学の調理概念は「呼吸」よりも「唇」であり、湿度とカロリー計算さえ完璧であれば、呼吸はなくてもよいという理論だ。勿論、「消化」に関しても一章を費やして議論している。もう一度読み直す必要があるな。

「月刊みみず 倒月号」吐月になると毎月、みみずが大量に死んでしまう。今月はそれが特集だった。付録のねじれみみず 1/144 モデルは雑誌の付録とは思えないく

らい精密で感心した。来月はみみずの三本目の右手が特集なので、これは買わないわけにいかないな。

帰ってから「言語」を少し書く。誰かが見ているような気がして振り向いてみたら今書いていた報告者の手が僕の日記を写していた。しかし、小説の中では、耳が手に気付いたという描写はまったくなかったから、たぶん気のせいだろう。おそらく小説に熱中していたために、そんな錯覚を覚えたのだろう。昔も、プログラムを作るのに夢中になっていたら、通りすがりの人の顔がスタックに見えてしかたがないということがあった。他人には理解しようのない感覚だな。

ともかく、報告書の書き手は、その耳氏をどこで監視しているのだろうか。まずは、監視している小<1文字後退削除>報告者の名前は爪先ということにしよう。勿論、これも報告書を読むための暗号コード表に記述されているのだな。で、問題は、「爪先は耳をどこで監視しているか」ということだ。ううむ。もしかすると、僕はこの小説に関してとんでもない勘違いをしているのかもしれない。

10時11分小説を書き始める

歩月足日(炭曜日)

考えてみればこれほど楽な仕事もなかったな。

おれは自分の部屋で、一步も机の前から動かず、ただ耳という人物の行動を空想し、わけのわからない日記を書き続けるだけで、報告書一丁できあがりというわけだ。

今まで、下手糞な尾行に気付かれて危ない目にあっただけでも何度もあるが、それより、このデスクワーク(わはは)の方が儲けが大きいってのはたまらないな。心配といえば、あの耳って奴が実はこの調査の依頼主だったらどうしようかということだったが、昨日の分の振込みがあったところを見ると、そうでもないらしいし、だいいち、クライアントは耳のことをなんにも分からないようだ。

こんな楽して儲かる仕事ばかりならいいんだが。

問題は、運動不足になることかな。ここんとこ、報告書を書くために一日中机の

前にすわっているから、腰が痛くなってしかたがない。まあ、たまには散歩くらいするかな。

10時56分小説を終え、11時7分就寝。

報告書 歩月額日(ビ曜日)

□補足□

歩月足日(炭曜日)の報告書に対する支払を確認いたしました。

どうもありがとうございます。

◇連絡事項1について◇

昨日は、報告書の内容について、「小説の推敲状態がもっとよく分かるようにせよ」との指示に対して、いくらかの表現上の試みをいたしました。それはかえって読み難く、著述時の思考を推察するのに十分ではないという理由から継続しないようにというご指示をいただきました。今後は、それに従い、一昨日のような表現方法を継続することにいたします。

◇連絡事項2について◇

耳氏の小説中に書かれている日記の書き手についての御質問についてお答えいたします。

まず、あの報告書は小説中の創作であり、明らかに耳氏の監視者、耳氏の命名によれば爪先と呼ばれる、私の日記ということになるようです。

しかしながら、私の日記を参照されたものではないことはここに断言させていただきます。耳氏が私の存在に気づき、さらに、私の日記を書き写すなどということはありません。それは、私の職業の誇りにかけてそう断言することができます。

ところが、第二の御質問に対しては諾と答えなくてはなりません。勿論、その内容が私の日記の内容と同一であることなどありえないことですし、同じではないとこの場で御答えすることは容易ですし、クライアント様にはそれを確認する手段もありません。しかし、クライアント様に虚偽の報告をすることによる私の誇りにつけられる傷と、万が一それが暴露された場合に失われる私自身の信用とを

考慮して、正直に申し上げますが、あの日記の内容は、正に私が当日記録した私自身の日記の内容と一字一句異なってはおりません。

このような回答を差し上げることが、私自身を極めて不利な立場に追い込むことを承知の上で、なおその職務上の義務と責任において、正直に回答させていただいていることを後理解ください。

また、もしも、私が自分の不利になる内容を自分に有利になるかまたは無関係であるかのように変更し修正することが可能であり、にもかかわらずかような引用をそのまま正確にお伝えしているという点におきましても、私の誠意を後理解いただきたいと思います。

また申し添えておきますが、報告書をお送りする際に間違っ私の日記の一部が混入したものでもないことは断言いたします。その点については、助手ともども幾度も確認の上で報告書の封をいたしておりますから、決して間違いはございません。

いかなる方法によって、耳氏が私の日記を小説中に引用したのか、私には回答不能の謎であります。それもまた文学的技法なのでしょうか。私にはその意義を想像することもできません。

なお、その私の日記といわれている日記に書かれている内容は全く真実ではありません。私はこの耳氏の自宅の隣家にて、24時間体制で行動を監視しておりますし、耳氏の行動を想像で報告していたりするものではありません。

にもかかわらず、私の日記のあのように無責任な行動は、正に私自身が書いたものであり、この報告書がまったくのたらめであるかのように自分で書いている理由が、実のところ私にもよく分からないのであります。もしや、私の中にもまた文学な人格が存在し、虚構の生活を書いているという可能性すら考慮いたしておりますが、事の真偽については、今後も調査を続け、必ず明瞭にしいずれご報告させていただくことを、ここにお約束させていただきます。

御質問の三番目にありました、耳氏の生理的な行動、つまり用便などに関する記述がまったくない点につきましては、ご依頼の報告書にそのような記述が必要と



は考えられなかったからであり、決してその間監視を怠っているわけではないのであります。同御質問の中にもありましたように、今後も、そのような詳細について報告することは控えさせていただくことにいたします。

□補足おわり□

起床7時21分。

朝食の内容は、トーストにチョコレートペーストをつけたもの一枚。

牛乳2カップ。

7時47分より歯を磨き、顔を洗う。

8時7分から8時52分までの間散歩。経路は添付。

9時1分より、ネットワークにアクセスし、12件のメールを処理する。

内7件は、「神経分解テクノロジー」のメーリングリストのもの。

13件は、「細胞食事学」のメーリングリストのもの。

1件が「エルブラン」に関する感想。

1件が、差出人不明。内容を読まずに破棄。

今日は、一件も返信を書かない。

10時1分、日記を書き始める。

歩月足日(炭曜日)

昨日は一日中「言語」にかかりきりだった。

それ以外の時間など存在しないかのように感じる。

報告者=監視者の日記を引用することによって、どのような現象が発生するか試してみた。

監視者が実際には監視などしていないことが明らかになった以上、爪先の報告書は破棄され、彼は仕事を失うはずだが、あるいは一度くらいは、釈明に成功するかもしれない。

だがもう一度、その釈明さえ偽りであるという日記が提示されれば報告者は仕事を失い、報告書は二度と書かれることがなくなるだろう。

なんと簡単なことだろうか。この小説はそういうように終わることにしよう。小説の最後の文章はこうしよう。

このようにして報告書はこれ以降書かれることはなかった。

13時14分昼食。野菜サラダとにゅうめん。白身の魚のフライ。

食後、13時49分家を出、14時7分喫茶支配者に着。レモンティーを飲む。雑誌「ティファレット」の倒月号を読む。15時12分支配者を出、15時37分自宅に戻る。

15時55分より執筆開始。

爪先は、ボールペンの先端をなめてから日記を書き始めた。

唇のまわりに黒く脈絡のない線が幾本も描かれている理由に、彼は少しも気付いていない。室内に鏡はない。

歩月額日(ビ曜日)

もうこの仕事も終わりかもしれんな。

耳のやつがああいうことを書くとは思わなかった。

しかし、どうやって俺の日記を見たんだろう。俺はこの部屋から一歩も外に出てはいないんだから、どうしたってそれは不可能だ。まあ、理由が分かろうが分かるまいが、現実には、これで仕事がなくなるということだ。

今日は、なんとかごまかしたが、もし、今日の報告書でまたこの日記が暴露されていたら、もう契約はおしまいだろうな。

いったい何のために、俺の日記を使うんだ。わからん。

わからんことばかりだ。

第一、あの耳という奴の行動は俺の想像の産物にすぎないはずじゃないか。何故、それなのに俺の仕事の邪魔をするんだ。

そうだな。この日記、全部書き直して、俺がちゃんと監視をし、現実の報告書を書いているのだという日記にしようか。それが引用されれば、疑いはすっかり晴れるだろう。昨日の小説が何か事故のようなものだったとでも、解釈してもらえれば運がいいということだな。そうそれが唯一の解決策かもしれないな。

だが、たぶん、昨日の日記と今日の日記の落差が、また、クライアントに疑われるだろうな。もうだめだな。

だがこの日記を俺以外の誰かが見るなんて不可能だ。絶対に。

18時3分執筆終了。

ココア1盃を飲み、昨日購入した雑誌を読む。22時5分就寝。

報告書 歩月腰日(ミ曜日)

補足

歩月額日(ビ曜日)の報告書に対する支払を確認いたしました。

どうもありがとうございます。

また、本日の報告書をもって、今回の契約を破棄される旨、まことに残念かつ遺憾ではありますが、現在の状況を客観的に判断すれば当然の処置と考えられますので、この報告書を最後として報告書の送付を終えるようにいたします。

弁明は、昨日いたしましたことを繰り返すしかありませんので、あえて今回は何も付け加えることはございません。

また、耳氏の引用した私の日記は、信じ難いことではありますが、確かに今回もしかしそうでありながら、私がこの報告書を想像力のみによって捏造していたなどという事実はないのであります。

私は、自分自身の職業上の自負と信念をまっとうするため、これ以降、報告書の送付はいたしません、耳氏の監視と報告書の作成は続けたいと考えております。

まったく馬鹿げた行動であると思われるでしょうが、それが、この「私」にとってまったく馬鹿げたこの一連の出来事に対する、「私」なりの抵抗なのであります。私は、自分の職業に自信と誇りを持っております。それが、このような理不尽な形で、中断され、おそらく、これによって修復不可能な程の社会的信用をも失うことになろうことは明らかです。私は可能な限り、それに、それを引き起こした原因に抵抗するものであります。

いずれにせよ、本日の報告書をもって、その送付は終了とさせていただきます。

□補足おわり□

8時7分起床。8時8分朝食。海老の殻とあわびの貝殻をあえたもの。8時9分散歩。経路は添付。8時10分帰宅。8時11分ネットワークにアクセスし、1056件のメールを受け取る。差出人の確認をせず、すべてのメールを削除する。8時12分日記を書き始める。

歩月額日(ビ曜日)

爪先が報告書に引用している小説に引用された爪先自身の日記によって、爪先はその仕事を失う。それによって小説自身も終わりを迎える。

8時13分日記を終える。

8時14分執筆を開始する。

歩月腰日(ミ曜日)

私はこの報告書を絶対に終わらせない。

いかなる理解不能な理由によろうとも、この報告書をクライアントが受け取りその費用を払うということがなくなろうとも、おれがこの報告書を書き続けることはできる。それだけはできる。

俺の報告書は絶対に終わらない。耳が存在を止めるまで、俺はこの報告書を書き続ける。いや、耳は決して存在することをやめはしないだろう。おれの想像力の続く限り、俺は耳の監視を続け、報告書を書き続けるのだ。

それが俺の仕事であり、俺の存在理由なのだから。

爪先はそうのように日記に書いたが、彼が日記を書いている間、耳氏が彼の日記と同じ文章を彼の小説に書き記していることも理解していた。何故ならそれが監視という行為の定義だからである。そして、監視が彼の仕事だからである。爪先は、自分自身のあらゆる行動を耳の監視に捧げているのであり、それは日記や食事や排泄といった、通常監視が不可能になる事態においてすら、彼の熱意によって監視は続けられる。彼は報告書を書き続ける。

送られ読まれることのない報告書は永遠に書き続けられる。

報告書が終わることはなく、小説は終わった。

8時15分執筆を終える。

8時16分就寝。8時17分起床。

15時3分日記を書き始める。

歩月腰日(ミ曜日)

僕の意図していた結末は爪先によって拒絶された。

そのため、爪先の報告書は書き続けられ、それ以前に僕の小説が終わってしまっ

た。問題なのは、その小説が、爪先の書いている報告書の形態をとって書かれているということだ。何故、形式が終了したのに、内容が続け続けることができるのだろうか。あるいは、形式は続いているのに、内容が終了したのだろうか。わからない。僕は、爪先の報告書の中の想像の産物にすぎないのだろうか。それとも小説はまだ終わっていないのだろうか。

11時89分日記を終える。

139時95分執筆を開始する。230時42分執筆を終了する。5239時1分就寝。5時1分起床。8時144分就寝。923時1分。1284時。547。66。1。